

防災について

安渡地区、須賀町などは、今までも大潮のときに水がついた。堤防を5mより高くしてほしい。

どんな堤防を作っても自然には勝てない。堤防、道路を2段階にしてほしい。

堤防の作り方が悪い。堤防を高くするだけでなく、盛り土にして道路をつけるとよい。

波が見えたから逃げたので助かった。波を見ていない人はたくさん亡くなった。

壊れた堤防は、みな柱が入っていなかった。不正な工事があったに違いない。

今回の津波で被害を受けたところを明確にした上で、国道をかさ上げして津波を防いだらどうか

いざという時に、どう逃げるかという意識を育てて、伝えていかななくてはならない。

先生が大槌で講演したときに、避難のルートがきちんとできていない、と言って怒った。マップを作って逃げられるようになっているというが、避難路は絵に描いた餅でしかなかった。

住宅について

漁師は海が見えるところに住みたい。避難路さえ確保できれば、今までと同じ所に住みたい。

水が来るところには住みたくない。盛り土をするか、高台移転を。

山を削って100戸、200戸を作るという案は、理想像に過ぎない。もっと現実的な話をすべきだ。

津波の時に逃げる場を作りながら、まちづくりを考えたほうがよい。

浸水地域だから全部住めないというのは適切でない。裏にルートがあるところでは建築を許可してほしい。

高台に家を作ったけど、津波で流された。元の土地には住みたくない。

高台に住んだら、隣近所の付き合いが無くなってしまう。

私は今のところに住みたい。みんなが高い所に住めるわけではないので争いになる（上町の人）。

避難タワーができるのなら、今のところに住みたい。

保障さえあったら、今のところに家を建てたい。時間がかかったら、住民がいなくなる。

田んぼを宅地してもらって、そこに住みたい。

堤防にお金をかけるぐらいなら、山を削って高台に家を建ててほしい（堤防は低くてよい）。

山を削るとしても、何年もかかる。そのあいだに人がいなくなってしまう。

産業

食っていくための方法を考えてほしい。鵜住居もダメになったので、あそこに工業団地を作ったらどうか。

仕事を作ってほしい。

福祉のまちにしたらどうか？海で魚を取り、畑で採れた野菜を食べさせる。外からも人を呼べる。

大槌の年収は170万。これでは子供に住んでくれと言えない。産業誘致が重要

病院・医療について

県立病院を、大槌と山田の境の四十八坂に作ってはどうか

大槌を医療天国にする。町内のドクターを一か所に集め、宿泊をセットにした検診体制を町内の人に利便性だけでなく、国内外から人を呼べるようにする

まちの将来構想

海と自然を活かした町づくりに。海の近くは運動場や体育館にして、寺野の運動公園を住宅地にする（一年中使えるサッカー場の利点をPRする）

東京大学の研究施設等を活かした、研究学園都市に

3段階のまちづくりの提案（盛り土、道路を作る、居住）

5年以内に三陸道が開通するので、仙台や花巻が通勤圏内になるという利点を活かす

城山の山を削れば、小槌川と大槌川とが一体になったドーナツ状の町ができる

大槌は2つの川があって、その間に発展してきた。歴史を踏まえない大槌の将来はない。

大槌の将来をこうしたいという方針を出して、国にむしろ旗をたてて持っていくことが必要。

海を活かしたまちづくりをしてほしい。水産加工場をどうするか？

陸前高田では松林を再建するという話がある。

町の規模はどうなのか。人口が2万いる大槌にしてほしい。

釜石は、大槌を吸収してやるという感じ。山田との統合を考えたらよい

その他

役場や病院、商業地などの主な機関はどこにできるのか。早く復興計画を立ててほしい

働く場所がないと、若い人が出て行ってしまう

これまでのローンがあるので、新しく家を建てられない。国の対応を望む

内陸への避難路の確保のために道路を整備してほしい

津波の体験を記録することが必要。津波の体験集を出してほしい。

町政への要望

町は住民に情報を出さない。少しでも良いから、住民に情報を出してほしい。

大槌小学校の件も、住民に説明会を開かないで、いきなり着工した。

■は誰も町に出て話を聞かない。■といえる資格のある人間がどれだけいるか。

町の復興計画にある基本方針の4つの素案は当たり前のこと。もっと先に進むべき。

何かイベントがあると、■が付いてくる。そんなことより仕事をしてほしい。

その他、具体的な要望

小学校が避難所になっていたが、そこに行く道が1本しかなかった。避難路を複数確保するのが重要

「地震があります。津波がきます」と最初に放送があっただけで、あとはなにもなかった

町のどこでも防災放送が悪かった。ほとんど何も聞こえなかった。ソーラーパネルを設置するなどして、停電でも聞こえる町に

街灯がないので夜は真っ暗で歩けない。街灯を一日でも早く

仮設ができたけど、優先のはずの地元の人が入れない。しかも住んでいない人があるので、再抽選を障害者、高齢者、子どものいる人を優先するというが、優先ではない（91歳と88歳の夫婦が未入居）抽選の仕方が不透明だ。高齢者が当たらない状況を見ると、不透明というより、不公正だ。

玄関がないので、履物を外に置かざるを得ない。外側の枠をもっと大きくしてもらいたい。

窓には網戸があるが、玄関には網戸がない。玄関にも網戸がないと風が入って来ない。

仮設の居住期間が終わった後に、仮説を安くもらいうけることができないか、国に掛け合ってほしい。

大家族で2つの部屋に入居している場合、2つの部屋をぶち抜くことを許可してほしい。

仮設が完成すると、配給が止まる。高齢者の家族などは、その後が心配。

年配の人と一緒に話し合える場が欲しい。

ガレキ撤去を外部の企業がやっている。地元の企業に優先的にガレキの撤去をやらせてほしい。

町の各地に、海拔何メートルかを示してほしい。そうすれば、住宅を作るときに参考にできる。

ボランティアは遠野や花巻から来ている。当のや花巻に泊まるのではなく、大槌に泊まれる施設がほしい

この会議の性格づけ

この会議は、町の意見を拾うことが重要。結論を求めすぎないように

行政と住民を結ぶパイプ役が必要

この会議で、復興の基本的ビジョンを出してほしい

各地域から出た意見を集約する会議の必要性

町に話を持っていくには責任ある体制が必要。代表を決めたほうがよい。

結いっことまちづくり会議との関係は？

町役場の情報を取ってきて、こういう場で紹介してほしい。

この会の目的は？まちづくりの案を作って、町に持っていったらどうか。

安渡だけでなく、町方でもこういう組織が必要。

この会議では、いつまでに、どういう町にするかという、青写真を出してほしい。

青写真を作るには、コンサルを通さないでほしい。コンサルは町のことを何も知らない。